

Ⅳ 市民会館・公民館の状況

1. 市民会館・公民館施設概要

会館は多様な文化的活動に対応しつつ、教育機関としての機能も果たしていく施設として、昭和52年6月に開館した。

福生市民会館・公民館 福生市福生2455 電話 52-1711

敷地面積 4,937.07 m^2

建築延面積 6,771.25 m^2

鉄筋コンクリート 地下1階 地上3階建

職員 12人

また、武蔵野台地区に昭和54年5月、熊川地区に昭和55年5月、社会教育活動の拠点として、地域の文化活動、また学習活動の場としての公民館分館が開館した。

(1) 松林分館 福生市武蔵野台1-15-1 電話 52-3624

敷地面積 1,104.98 m^2

建築延面積 5,643.0 m^2

鉄筋コンクリート 地上2階建

職員 2人

(2) 白梅分館 福生市熊川559-1 電話 53-3454

敷地面積 2,158.03 m^2

建築延面積 5,705.9 m^2

鉄筋コンクリート 地上2階建

職員 2人

民衆の勤労公・勤労会市

勤労会市・勤労公

勤労会市は、勤労者の生活向上を目的として、勤労者の生活必需品を、低廉に供給することを目的とする。

勤労会市は、勤労者の生活必需品を、低廉に供給することを目的とする。

勤労会市は、勤労者の生活必需品を、低廉に供給することを目的とする。

勤労会市は、勤労者の生活必需品を、低廉に供給することを目的とする。

勤労会市は、勤労者の生活必需品を、低廉に供給することを目的とする。

勤労会市は、勤労者の生活必需品を、低廉に供給することを目的とする。

勤労会市は、勤労者の生活必需品を、低廉に供給することを目的とする。

勤労会市は、勤労者の生活必需品を、低廉に供給することを目的とする。

勤労会市は、勤労者の生活必需品を、低廉に供給することを目的とする。

勤労会市は、勤労者の生活必需品を、低廉に供給することを目的とする。

勤労会市は、勤労者の生活必需品を、低廉に供給することを目的とする。

勤労会市は、勤労者の生活必需品を、低廉に供給することを目的とする。

勤労会市は、勤労者の生活必需品を、低廉に供給することを目的とする。

勤労会市は、勤労者の生活必需品を、低廉に供給することを目的とする。

勤労会市は、勤労者の生活必需品を、低廉に供給することを目的とする。

勤労会市は、勤労者の生活必需品を、低廉に供給することを目的とする。

勤労会市は、勤労者の生活必需品を、低廉に供給することを目的とする。

勤労会市は、勤労者の生活必需品を、低廉に供給することを目的とする。

2. 市民会館・公民館の利用状況

施設名			月 別	63年 4			5			6			7			8			9			1 0			1 1			1 2			平成元年 1			2			3			合 計		
			区 分	有	減	総	有	減	総	有	減	総	有	減	総	有	減	総	有	減	総	有	減	総	有	減	総	有	減	総	有	減	総	有	減	総	有	減	総			
				料	免	数	料	免	数	料	免	数	料	免	数	料	免	数	料	免	数	料	免	数	料	免	数	料	免	数	料	免	数	料	免	数	料	免	数	料	免	数
市 民 会 館	ホ ー ル	大 ホ ー ル	17 ^回		17 ^回	12 ^回		12 ^回	38 ^回		38 ^回	21 ^回		21 ^回	10 ^回		10 ^回	27 ^回		27 ^回	40 ^回		40 ^回	47 ^回		47 ^回	17 ^回		17 ^回	7 ^回		7 ^回	14 ^回		14 ^回	27 ^回		27 ^回	277 ^回		277 ^回	
		小 ホ ー ル	27		27	22		22	23		23	46		46	13		13	29		29	32		32	29		29	21		21	7		7	16		16	31		31	296		296	
		小 計	44		44	34		34	61		61	67		67	23		23	56		56	72		72	76		76	38		38	14		14	30		30	58		58	573		573	
	集 会 室 等	リハーサル室	0	16	16	3	13	16	6	22	28	11	7	18	7	11	18	3	22	25	0	8	8	2	33	35	2	9	11	0	14	14	0	12	12	3	17	20	37	184	221	
		第1集会室	9	20	29	12	21	33	18	24	42	12	27	39	10	17	27	6	35	41	18	22	40	3	43	46	4	28	32	5	26	31	8	32	40	4	43	47	109	338	447	
		第2集会室	6	36	42	3	42	45	7	44	51	13	42	55	7	24	31	8	45	53	15	39	54	3	51	54	4	40	44	4	29	33	9	41	50	11	45	56	90	478	568	
		第3集会室	9	30	39	3	32	35	3	53	56	5	41	46	11	23	34	10	41	51	5	41	46	0	50	50	1	39	40	4	32	36	8	41	49	9	47	56	68	470	538	
		第4集会室	9	29	38	10	34	44	15	40	55	11	30	41	5	28	33	8	32	40	19	33	52	10	45	55	10	30	40	15	17	32	12	28	40	20	31	51	144	377	521	
		第5集会室	1	34	35	7	29	36	9	42	51	6	36	42	6	32	38	7	45	52	7	45	52	4	51	55	8	30	38	5	15	20	10	26	36	13	28	41	83	413	496	
		第6集会室	5	23	28	12	18	30	4	38	42	3	37	40	3	34	37	2	38	40	13	42	55	2	51	53	6	34	40	3	22	25	9	34	43	8	43	51	70	414	484	
		第7集会室	3	22	25	7	14	21	4	37	41	3	32	35	3	34	37	2	37	39	13	37	50	2	51	53	6	6	12	3	22	25	9	33	42	7	43	50	62	368	430	
		第8集会室	8	5	13	9	6	15	7	10	17	7	9	16	6	5	11	11	14	25	12	8	20	10	29	39	14	0	14	11	3	14	11	8	19	16	10	26	122	107	229	
		展 示 室	0	0	0	0	0	0	0	15	15	0	4	4	0	20	20	0	5	5	0	22	22	0	21	21	0	0	0	0	0	0	0	8	8	6	0	6	6	95	101	
		小 計	50	215	265	61	209	275	73	325	398	71	265	336	58	228	286	57	314	371	102	297	399	36	425	461	55	216	271	50	180	230	76	263	339	97	307	404	791	3,244	4,035	
	計		94	215	309	100	209	309	134	325	459	138	265	403	81	228	309	113	314	427	174	297	471	112	425	537	93	216	309	64	180	244	106	263	369	155	307	462	1,364	3,244	4,608	
公 民 館	調 理 室	7	25	32	5	24	29	6	34	40	3	37	40	3	17	20	3	37	40	3	32	35	1	52	53	3	35	38	3	21	24	6	30	36	3	46	49	46	390	436		
	美 術 室	0	20	20	0	15	15	2	19	21	0	32	32	0	13	13	0	24	24	0	23	23	0	38	38	0	10	10	0	10	10	0	16	16	0	33	33	2	253	255		
	音 楽 室	2	32	34	2	27	29	0	31	31	1	26	27	1	38	39	0	25	25	0	31	31	0	42	42	2	34	36	1	30	31	1	42	43	1	31	32	11	389	400		
	視 聴 覚 室	0	18	18	0	15	15	0	29	29	0	15	15	1	31	32	0	20	20	2	16	18	0	33	33	2	18	20	0	23	23	1	29	30	0	15	15	6	262	268		
	児 童 室	2	14	16	0	15	15	1	28	29	0	30	30	0	10	10	0	24	24	1	25	26	0	43	43	1	32	33	0	24	24	0	34	34	0	28	28	5	307	312		
	計		11	109	120	7	96	103	9	141	150	4	140	144	5	109	114	3	130	133	6	127	133	1	208	209	8	129	137	4	108	112	8	151	159	4	153	157	70	1,601	1,671	
合 計			105	324	429	107	305	412	143	466	609	142	405	547	86	337	423	116	444	560	180	424	604	113	633	746	101	345	446	68	288	356	114	414	528	159	460	619	1,434	4,845	6,279	

松 林 会 館 利 用 状 況

区分		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
主 催 事 業	件 数	49	43	30	39	41	37	79	50	27	16	27	26	464
	人 数	656	999	397	504	545	513	3,679	356	344	182	304	296	8,775
住 民 の 社会教育活動	件 数	106	100	126	112	76	101	95	96	103	75	118	132	1,240
	人 数	1,538	1,335	1,848	1,739	1,041	1,418	1,243	1,351	1,467	948	1,536	1,920	17,384
公 共 的 団 体	件 数	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2	2	7
	人 数	11	0	0	12	0	0	14	0	0	0	23	55	115
政 治 宗 教 団 体	件 数	7	4	9	6	5	6	6	10	4	7	3	4	71
	人 数	167	175	332	370	81	161	245	278	250	476	190	247	2,972
企 業	件 数	3	4	4	2	5	5	5	2	2	5	3	2	42
	人 数	95	95	95	40	133	116	145	40	55	116	115	55	1,100
そ の 他	件 数	9	9	10	6	4	5	8	4	9	6	6	7	83
	人 数	244	224	145	106	105	93	333	85	193	172	92	144	1,936
計	件 数	175	160	179	166	131	154	194	162	145	109	159	173	1,907
	人 数	2,711	2,828	2,817	2,771	1,905	2,301	5,659	2,110	2,309	1,834	3,268	2,777	32,282

白 梅 会 館 利 用 状 況

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
区分														
主 催 事 業	件 数	6	12	16	15	19	15	31	15	14	11	14	11	179
	人 数	68	633	210	261	138	227	400	281	275	210	300	205	3,208
住 民 の 社会教育活動	件 数	158	125	170	163	102	140	187	143	122	99	146	168	1,723
	人 数	2,200	1,943	2,584	2,493	1,553	2,014	2,329	1,944	1,841	1,401	2,142	2,508	24,952
公 共 的 団 体	件 数	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	3
	人 数	30	0	0	0	0	0	30	0	0	0	0	40	100
政 治 ・ 宗 教 的 団 体	件 数	3	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	2	8
	人 数	129	0	0	0	80	0	80	0	10	0	0	80	379
企 業	件 数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	人 数	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20
そ の 他	件 数	1	0	0	0	0	2	0	1	0	2	3	2	11
	人 数	20	0	0	0	0	100	0	10	0	100	108	70	408
計	件 数	170	137	186	178	122	157	220	159	137	112	163	184	1,925
	人 数	2,467	2,576	2,794	2,754	1,771	2,341	2,839	2,235	2,126	1,711	2,550	2,903	29,067

3. 公民館運営審議会

公民館運営審議会は、館長の諮問に応じ、公民館における各種の事業の企画実施につき調査審議する機関である。この制度は社会教育法上必置制となっており、当市の場合任期2年、定数10名で構成される。

本年度の審議内容は次のとおりである。

第1回 昭和63年4月27日(水) 公民館

○昭和63年度主催事業について

○その他

第2回 昭和63年9月12日(月) 公民館

○都公連委員部会Bブロック研修会の内容について

○その他

第3回 昭和63年10月19日(水) 公民館

○委嘱状の交付について

○正副委員長の互選について

○その他

第4回 昭和63年11月14日(月) 公民館

○昭和63年度下半期主催事業について

○その他

第5回 昭和63年12月5日(月) 公民館

○昭和64年度公民館予算案について

○研修について

○報酬費の取扱いについて

○その他

第6回 平成元年1月23日(月) 公民館

○研修について

○その他

視察研修 平成元年2月25日(土) 所沢市公民館

第7回 平成元年3月24日(金) 公民館

○平成元年度公民館予算について

○自主団体への会場借上料援助事業に関する取扱い要領(案)について

○その他

4. 奨励・援助

(1) 人的援助

各団体、個人の相談に応じ、職員が必要な助言、指導、援助を行った。

分館を除き、公民館では、夜間における社会教育の活動が昼間より非常に多いことから、これら社会教育活動をする市民（団体）の相談にのり、必要な援助をするため、職員が1名残る体制をとっている。（午後5時から10時まで）

(2) 教材、教具等の利用

(3) 事務援助

印刷事務等

(4) 会場借上

大ホール 1回（市民音楽祭）

小ホール 2回（市民劇団バックス、ニューダンスサークル）

社会教育備品貸出し状況

内訳	月	51年 4月	5	6	7	8	9	10	11	12	62年 1	2	3	計
利用団体		1	7	6	8	8	1	3	3	4	1	6	7	55
16ミリ映写機		1	3	5	3	6		3	1		1	4	3	30
8ミリ映写機													1	1
8ミリカメラ														0
スライド映写機			1		1									2
O H P			2		1				1	1			1	6
スクリーン			5	2	1	2		1	2			1	3	17
暗幕			1		1	1				1			1	5
ビデオセット					2		1		1			2	1	7
スポットライト					1	1				1			1	4

立川社会教育会館フィルム配送サービス取扱

内訳	月	63年 4月	5	6	7	8	9	10	11	12	元年 1	2	3	計
利用団体		1		4	7	4	1	1	1	5		2	6	32
本数		1		10	14	7	2	1	5	11		5	16	72

5. 公民館主催事業

(1) 幼 児

保育室事業

幼児の成長、発達をはかり、子どもをあずけることを通して、母親が学習していく場として実施した。

期 間 （前期） 昭和63年6月8日（水）～10月13日（木）

15回×2コース、14回×1コース 午前10時～正午

（後期） 昭和63年11月11日（金）～平成元年3月25日（土）

15回×2コース、13回、12回各1コース 午前10時～正午

会 場 公民館、松林分館、白梅分館

参加者 （前期） $(11+12) \times 15 \text{回} + 11 \times 14 \text{回} = 499 \text{人}$

（後期） $(9+12) \times 15 \text{回} + 7 \times 13 \text{回} + 11 \times 12 \text{回} = 538 \text{人}$

計 1,037人

内 容 幼児が集団の中で能動的にかかわれるようにする。幼児の自主性を育てる。

実 施 コ ー ス		幼 児 数					延参加者数
		1 才	2 才	3 才	4 才	計	
前 期	公 民 館 木 曜 コ ー ス	5	5	1	—	11	499人
	松林分館金曜コース	6	5	1	—	12	
	白梅分館水曜コース	4	4	3	—	11	
後 期	公 民 館 月 曜 コ ー ス	8	1	—	—	9	538人
	〃 木 曜 コ ー ス	3	1	2	1	7	
	〃 金 曜 コ ー ス	5	3	3	1	12	
	松林分館土曜コース	2	6	3	—	11	

(2) 少 年

合同キャンプ

三館合同でキャンプを実施することにより、幅広い子どもの交流を図り、豊かな人間関係を育む場として実施した。

期 間 昭和63年8月18日(木)～20日(土) 2泊3日

場 所 奥多摩町川井キャンプ場

参加者 本 館 子どもアウトドア教室 36人

松 林 子ども教室 6人

サバイバル教室 10人

白 梅 たんけん教室 9人

計 61人×3=183人

	8・18	8・19	8・20
6:30～ 7:00	開 村 式 11:40	朝 の つ ど い	
7:00～ 9:30		朝 食	
9:30～12:00		選択プログラム ①川で遊ぶ ②山で遊ぶ	清 掃 ・ 片 付
12:00～13:00		③そば・うどんをつくる	昼 食
13:00～16:00	自由プログラム	④鍾乳洞たんけん	閉 村 式 13:00
16:00～18:30	夕 食		
18:30～21:00	合同プログラム 映 画 会	合同プログラム キャンプファイヤー	
21:00～22:00	反 省 会		

講 師 各教室の実技指導者

総 括 今年は雨にたたられたキャンプになったが、どうにかプログラムをこなすことができた。しかし、雨の日のプログラムを別に用意しておくことが、キャンプをスムーズに運営していくためには必要のように思う。今後の課題といたしたい。

子どもアウトドア教室

野外生活に必要な知識・技術を学びながら、子ども同士の仲間づくりを図る。

期 間 昭和63年7月28日(木)～9月1日(木) 午後2時～4時 全9回

会 場 公民館集会室及び野外

参加者 39人×9回=351人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
7. 28	なかまを知ろう。／	オリエンテーション、自己紹介	担 当 職 員 久保山佳奈氏
30	キャンプって何だろう？	キャンプとは、班分け、班会議	
31	デイキャンプでカレーづくり	柳山公園でカレーライスづくり	
8. 4	外にでてみよう。／	草花丘陵をハイキング	沢村 雅人氏
11	キャンプ班会議だ。／	合同キャンプ班会議(役割分担等)	
17	キャンプ最終チェック	〃 (スタンツ等)	石川 太郎氏
18	合同キャンプ	合同キャンプに参加	小泉 喜由氏
19			
20			
25	キャンプ反省会	合同キャンプの反省	
9. 1	うどんづくりでしようなら	うどんづくり、まとめ	

総 括 4年目を迎え、子ども集団としてまとまりがでてきたようだ。しかし、その集団のなかから、どうリーダーをひきだしていくのか、考えていく必要があるようだ。

子どもチームワーク教室

次代を担う子ども達がより豊かな人間に育っていくために、団体活動、共同作業を通して健全な協調性、チームワークを身につけていくことを目標として実施した。

期 間 昭和63年12月21日(水)～平成元年2月22日(水)

全10回

午後2時30分～4時30分

会 場 公民館及び野外

参加者 15人×10回=150人

月 日	内 容	講 師
12. 21	オリエンテーション、自己紹介	担 当 職 員
22	ボールゲーム等によるなかまづくり	
24	〃	
25	クリスマス・パーティ	
1. 11	ボールゲーム等によるなかまづくり	
25	〃	
2. 1	〃	
8	〃	
15	〃	
22	〃	

総 括 最初は参加者が少なかったが、徐々に増えてきて途中から団体活動をおこなえるようになった。子どもの数が10人を越すと担当職員だけでは目のいきとどかないことがあるので、スタッフの必要性を感じた。

子ども教室88'

(1) 子どものあそびを通して、異年齢集団を経験する。(2) 子どもの手の技や巧みさを(3)自然の触れあいを大事にしながら、自然の中で感性を豊かに、地域を科学的にみる目をやしなう。(4) 仲間に働きかけながら、何にかを力をあわせて一緒にやりとげる力を育て、子どもに自治能力を身につけていくことを目的とした。

期 間 昭和63年6月4日(土)～9月17日(土)

会 場 松林会館、多摩川原、草花丘陵

参加者 475人

月 日	テ ー マ	講 師
6. 4	たのしくあそぼう	担 当 職 員
11	〃	加 藤 有 孝
18	〃	〃
25	割 ば し 鉄 砲	〃

月 日	テ ー マ	講 師
7. 2	笛を作ろう	加 藤 有 孝
9	パタパタを作る	〃
16	野外であそぶ	〃
23	草花へ探検	〃
30	〃	〃
8. 6	松林練習キャンプ	〃
7	〃	〃
13	本キャンプ打ち合せ	〃
16	説 明 会	〃
18～20	奥多摩町営川井キャンプ場、2泊3日	〃
9. 3	多摩川へ探検に出かけよう	〃
10	多摩川へ探検へ出かけよう	〃
17	自転車を解体しよう	〃
24	〃	〃

子ども教室Ⅱ、パッチ・ワーク教室

1960年代以後、子どもの生活から大きく失なわれたものに、手労働としての手わざがある。手労働は、生産との関係の中で伝承され、1つの生活技術文化として子どもに伝えられて来た。えんぴつが削れない、リンゴの皮がむけないが増えて来ているといわれて 久しいが、今日、あらためて、手労働を生活技術の1つとして伝えて行くことは大事になって来ている。その生活技術の1つである“縫う”ことをテーマにした。

期 間 昭和63年7月27日から8月4日まで 全5回

会 場 松林会館

参加者 70人

月 日	テ ー マ	講 師
7. 27	何を作ろうか、図面を書く	深瀬恵子氏
28	製 作	(パッチ・ワーク作家)
8. 1	〃	
3	〃	
4	合 評 会	

夏休みおもしろ科学、歴史教室

科学や歴史学のおもしろさを体験を通して学ぶ場とした。

期 間 昭和63年8月4日から8月11日まで 全4回

会 場 松林会館

参加者 48人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
8. 4	熱、あったかい温度	熱の性質を実験で考える	田代 正夫氏 (秋川中学校教諭)
5	空気の性質	大気圧、空気について	〃
10	福生の歴史	福生の通史	立川 愛雄氏 (文化財専門委員)
11	玉川上水	玉川上水の歴史	田村 光男氏 (瑞穂中学校教諭)

第6回 子どもフェスティバル

かつて、子ども社会が持っていた、地域の主人公としてはたしてた役割を、子ども自身の手でつくっていく場で、子ども自身の手による、子どものフェスティバルとした。

期 間 昭和63年1月10日から5月8日まで 全22回

会 場 松林分館

参加者 準備参加者延660人 当日参加者 400人

月 日	内 容
1. 10	第6回フェスティバルイメージ
17	第6回実行委員長、副委員長、記録を決める
24	フェスティバルイメージづくり
31	やりたいものを出しあい討論
2. 7	〃
14	〃
21	〃
28	〃

月 日	内 容
3. 7	催し物の決定、 班分け、 班活動
14	"
21	"
28	ダンボール集め、劇団ファンタスティック
4. 3	お化け屋敷班、しかけ作り、迷路通り班ダンボール集め
10	各班それぞれ準備活動
17	"
24	"
29	タイム、テーブル決定
5. 1	ワッペン作り、プログラム作り
3	ワッペン印刷、プログラム印刷、竹とり
5	ワッペン作成、プログラム
7	前日のフェスティバル会場づくり
8	当 日

第6回子どもフェスティバル実行委員長 林 田 貴 一 (高校2年生)

" 小 林 実 (高校2年生)

記 録 係 名々井 美 帆 (中学2年生)

新 聞 係 齊 藤 明 朗 (社 会 人)

8日当日の内容 当日参加者 400名

会場時間	10時	11 12	1時30分	2時15分	3時
大集会室	映画 ピッピの ぼうけん		劇 劇団 Fantastic 「おもちゃ さいばん」	手 品 ふしぎな手	劇 最初で最後 プロジェクト 「夢の中へ」
学 習 室	ア ニ メ 展 かみしばい				
小集会室	お ば け 屋 敷				
庭	ダンボール迷路、 模擬店(焼そば、わたあめ)				

劇団Fantastic. 久保田万太郎作「おもちゃ裁判」

演 出 名々井 美保

劇団最初で最後プロジェクト 斉藤 明朗作 「夢の中へ」

演 出 斉藤 明朗

手 品 高橋 邦彦氏

アニメ展 福生高マンガ研究会有志、福生第2中学美術部有志

松林文庫

地域の子どもたちに、文庫を開設した。

昭和63年4月 3 日から平成元年3月30日、毎木曜日、午後3時～5時、全45回

参加者 450人

サバイバル教室

生きることへの努力をさほど必要としない現代において、子供自身が仲間と力を合わせながら、自らの生活をきりひらけるような生きぬく力、知恵を身につけることを目標に実施した。

期 間 昭和63年6月29日(水)～8月31日(水)

会 場 松林分館 他

参加者 13人×10回=130人

講 師 佐久間 直冬氏、佐藤 克年氏、村井 基樹氏

月 日	内 容
6. 29	オリエンテーション、自己紹介、室内ゲーム 他
7. 6	小刀をつかって、はし、スプーン等の製作
13	いろいろな結びの技術をマスターする
20	応急手当の方法を学ぶ
27	カレーづくりと練習キャンプ準備、丸太小屋の設計
8. 2	練習キャンプ 買い出し、室内ゲーム
3	↓ 市内ウォークラリー
4	↓ 多摩川であそぶ
17	合同キャンプ準備、役割等の決定、買い出し
31	反 省 会

総括 今年の練習キャンプは雨にたたられ、予定していた丸太小屋づくり、植物観察等が
できなかった。経験者も多く、キャンプ等での食事作りは段取りよくすすめられるよ
うになったが、火の前での作業では及び腰でこわごとをやっていた。

夏休み工作教室 「手づくり楽器をつくろう」

今年の夏休み工作は竹をつかった手づくり楽器を竹取りから挑戦していき、工作の楽しさ、手先
を上手に使うこと、また、音のなりたちと音階について学んだ。また、作る過程を通して仲間と協
力してとりくむこと等を目標に実施した。

期 間 昭和63年8月26日(金)～8月29日(月)

会 場 松林分館 他

参加者 17人×3回=51人

講 師 松本公博氏(カテリーナ古楽器研究工房) 他

月 日	内 容
8. 26	羽村に竹を取りに行く、松林にもどりトガトンの製作
27	パンパイプの製作 ①
28	" ②

総括 今年は竹を実際にとりに行くところからはじめた。子どもたちはやったことのない
子ばかりで、ヤブ蚊にくわれながら、興味深くとりくんだ。竹の長さの調節から音階
をだすこと等、手づくりの楽器に満足したようだ。

冬休み工作教室 「はごいたをつくろう」

伝承あそびの一つとしてはごいたを作る中から、手先のたくみ、集中してものごとをやりきる
力を養うために実施した。

期 間 昭和63年12月26日(月)

会 場 松林分館

参加者 10人×2回=20人

講 師 高崎伊平氏(元小学校長)

月 日	内 容
12. 26	午 前 板材の加工、電動糸のこではご板の形に切る。ペーパーがけ 午 後 絵付け、羽根づくり

総 括 それぞれが思いおもいのはご板絵を書き、オリジナルなはご板ができた。電動糸のこの使い方もすぐに慣れ、余った材料で木のマスコットなどを作った。

羽根はむくろじゅの実とにわとりの羽根で作った。最後に組になって遊んだが、自分の作ったものに満足気だった。普段の生活の中では、おもちゃを含め、ほとんどが買ってしまうものであり、自分の力で遊び道具ができることにたいへん興味をいだいたようだ。

たんけん教室

今日の子どもを取り巻く状況は、単純に説明できる状況にはない。例えば、以前は仲間関係の＝人間の中での遊びが中心となっていたが、今日では、ファミコンやゲームなどの物の中での遊びが中心になってしまった。

このような現状の中では、子どもが多忙のためになかなか仲間との遊びの時間がとれず、人間関係がうまく作れなくなってしまうのではないかという、危機が語られている。

このため今年のたんけん教室では、「子ども自らが仲間に働きかけるちから」「自然に働きかけるちから」などを養う機会にしようと考え、以下のようなプログラムを設定した。

期 間 昭和63年4月23日(土)～平成元年4月2日(日) 全39回

会 場 白梅会館、市内河原・公園、滝山丘陵・草花丘陵・奥多摩など

参加者 延べ人数 390人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
4. 23	オリエンテーション	教室の説明と各自の自己紹介	岡田紀夫氏 栗原 仁氏
5. 14	市内オリエンテーリング	市内で地図とコンパスの練習	
5. 28	磁北線を引く	地図上の実際の“北”を知る	
5. 29	滝山オリエンテーリング	滝山で地図とコンパスの練習	宮岡一雄氏
6. 19	草花オリエンテーリング	草花で地図とコンパスの練習	

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
7. 16	夏休みオリエンテーション	夏休みプログラムの説明	の各氏の他、 実技指導員 数人が毎回 スタッフと して参加し た。
8. 1	滝山の遊び場をさがす 1	滝山丘陵で遊びの可能性を探る	
8. 4	滝山の遊び場をさがす 2	滝山丘陵で遊びの可能性を探る	
8. 5	滝山の遊び場をさがす 3	滝山丘陵で遊びの可能性を探る	
8. 7	滝山の遊び場をさがす 4	滝山丘陵で遊びの可能性を探る	
8. 17	キャンプの打ち合わせ	夏休み中のキャンプの打ち合わせ	
8. 18	合同キャンプ	3館合同でキャンプを行なった	
8. 19		場所は川井キャンプ場	
8. 20			
8. 24	たんけんキャンプ	滝山丘陵で野宿のキャンプの体験をし	
8. 25		てみる。キャンプに必要な施設などの 設営を行なう	
8. 29	夏休みまとめ	今年の夏休みのまとめ	
9. 3	ウォークラリー準備	ウォークラリーを子ども達の発案と準備 で開催する。そのために各種の準備 を毎週行なう	
9. 10	ウォークラリー準備		
9. 17	ウォークラリー準備	同 上	
10. 1	ウォークラリー準備	同 上	
10. 8	ウォークラリー準備	同 上	
10. 10	何でも食べちゃおう	滝山丘陵で秋の味覚を食べてみる	
10. 15	ウォークラリー準備	ウォークラリーを子ども達の発案と準備 で開催する。そのために各種の準備 を毎週行なう。	
10. 22	ウォークラリー準備		
10. 29	ウォークラリー準備	同 上	
11. 5	ウォークラリー準備	同 上	
11. 12	ウォークラリー準備	同 上	
11. 19	ウォークラリー準備	同 上	
11. 20	ウォークラリー当日	熊川地区と河原を利用して開かれた	
11. 27	奥多摩たんけん 1	秋の大高山で地形を地図上で確認	
12. 4	冬鳥観察会	多摩川にやってくる冬鳥の観察	
12. 18	滝山たんけん	二次林の成り立ちを滝山で観察	
2. 4	奥多摩たんけん 2 打合せ	冬山登山に必要なことの説明	

月 日	テ　　マ	内　　　　　　容	講　　師
2.　11	奥多摩たんけん　2	雪の残る三頭山に登って冬山体験	
3.　24	ファミリーハイキング打合せ	子ども達の一年間の成長を父母にみてもらうことや、仲間を誘ってハイキングにいける力をみせる	
3.　27	ファミリーハイキング下見調査		
3.　29	ファミリーハイキング資料作成	下見の資料をパンフレットに作成	
4.　　2	ファミリーハイキング当日	今年は高水三山に登山した	

総 括 子どもの、物に働きかけるより仲間の人間に働きかけることを中心に考えてきたが、ウォークラリーの準備過程で大きな成果があった。それは、一つのことをみんなの力を合わせて共同・協力して形あるものを作っていくという、「わかりやすい＝見通しのつけやすい」作業だったからだと思う。しかし、中学生になってしまうと、参加が減少してしまうのが惜しい。

今年は特に夏の間に雨が多く、スケジュールと内容が十分実践できなかったが、非常に心残りとなった。

(3) 青 年

ヤングカレッジ「中国文化」

次代を担う青年達に中国語及び中国文化の学習の機会を与え、その学習を通して中国という国を理解していき、自分自身の国際感覚を養うことと、参加者相互の交流をはかり仲間づくりをすることを目標として実施した。

期 間 昭和63年10月14日(金)～平成元年3月3日(金)

午後7時30分～9時30分

全20回

会 場 公民館 他

参加者 7人×20回＝140人

月 日	内 容	講 師
10. 14	オリエンテーション、自己紹介	戴 曉誠氏 (東海大学留学生)
10. 21	トラベル中国語会話	
10. 28	中国の歴史、会話「天気について」	
11. 11	会話「名詞、単語」	曾 紅氏 (学習院大学院留学生)
11. 18	会話「天気について」	本田 緑氏 (太極拳のつどい)
11. 25	中国料理の調理	
12. 2	ビデオ「ラスト・エンペラー」の鑑賞	
12. 22	ビデオ「西太后」の鑑賞	上野邦子氏 (太極拳のつどい)
12. 23	ビデオ「西太后」解説、話し合い	中村絹江氏 (太極拳のつどい)
1. 6	ビデオ「ラスト・エンペラー」解説、話し合い	
1. 7	「中国の器展」の鑑賞	
1. 13	太極拳	池野国志氏 (桂花楼料理長)
1. 20	太極拳、中国の子どもの遊びについて	
1. 27	中国料理の調理	
2. 3	中国を紹介したビデオの鑑賞(気功、黄山)	
2. 10	中国の美術について	
2. 17	プロによる中国料理の調理	
2. 18	横浜・中華街の散策	
2. 22	中国の政治について	
3. 3	まとめ	

総 括 参加者は少なかったが満足度は高かったようである。内容に関しては、参加者、講師、担当職員の三者で話し合いの上、決定した。

ヤングカレッジ「とびっきりおいしいコーヒーいれま専科」

世界で最も愛飲されているコーヒーを題材に、その歴史、種類等を学ぶことから世界の文化を知り、合わせて参加者相互の交流をはかり地域の中で生活する青年達の仲間づくりのきっかけとするために実施した。

期 間 平成元年3月24日(金) 午後7時30分～9時30分
 ～平成元年3月26日(日) 午後1時～3時 全2回

会 場 公民館 他

参加者 11人×2回=22人

月 日	内 容	講 師
3. 24	オリエンテーション、コーヒーの歴史、種類について	田 村 颯 孝氏 (喫茶琥珀 店主)
3. 26	コーヒーのいれ方の実習	

総 括 参加者がコーヒーの愛好者ばかりだったので、講義、実習とも活気のある講座となった。

いまどきのトラベル英会話

青年がトラベル英会話を通して、相互の交流をはかり仲間づくりをする場として実施した。

期 間 平成元年1月20日(金)～3月24日(金)午後7時30分～9時30分 全10回

会 場 公民館

参加者 17人×10回=170人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
1. 20	オリエンテーション	講座の説明、自己紹介	ヘレン・フーラ
1. 27	トラベル英会話基本語句 I	トラベル英会話の基本	
2. 3	〃 II	〃	
2. 10	〃 III	〃	
2. 17	〃 IV	〃	
2. 24	アメリカンケーキをつくる	親睦をかねてケーキづくり	
3. 3	トラベル英会話実用編 I	トラベル英会話の応用	
3. 10	〃 II	〃	
3. 17	〃 III	〃	
3. 24	フェアウェルパーティー	英語によるゲーム、まとめ	

総 括 講座終了後、「ハッピートーク」として自主活動を続けている。

夏のボランティア活動体験

青少年がボランティア活動にかかわるきっかけの場として実施した。

期 間 昭和63年7月22日(金)～8月28日(月)

会 場 公民館および施設各所

参加者 91人

月 日	内 容	場 所	人 数
7. 22	説 明 会	公 民 館	20
7. 29～31	老人ホームボランティア	松 楓 園	4
8. 1～5	保育園ボランティア	東福保育園	5
8. 1～5	〃	若葉保育園	12
8. 2～6	〃	ひこばえ幼稚園	7
8. 3～5	福祉作業所ボランティア	けんげ作業所	2
8. 13・27	おもちゃ図書館ボランティア	おもちゃ図書館	9
8. 17・18	老人ホームボランティア	サンシャイン・ビラ	11
8. 21	障害者学級ボランティア	一中プール	4
8. 27～28	障害児施設ボランティア	青梅学園	17

総 括 社会福祉協議会との共催でおこなっている。そのため、各々で活動している人達が集まれる機会となりえた。今後ともひとつのセクションに限らず、横のつながりの必要を感じた。

こだわり講座「バレンタインは手づくりチョコで」

バレンタインデーについては様々な意見があると思うのだが、相手に自分の気持ちを伝えるには、ただ売っているものよりも自分で作った物の方がより良いのではないかという軽い発想で、青年を対象に「手づくりチョコレート」に挑戦してみた。

期 間 平成元年1月14日～2月4日 毎週土曜日 全4回

場 所 公民館調理室

参加者 10人×4回＝40人

月 日	内 容	講 師
1. 1. 14	チョコレートクッキーの作成	加 藤 文 子 氏
1. 21	チョコレートナッツの作成	
1. 28	チョコレートケーキの作成	
2. 4	トリュフの作成	

総 括 チョコレート製品を作るだけの作業に追われ、なぜバレンタインなのかというような話を引き出すことが出来なかった。チョコづくりだけでなく、もう少し男と女の関係にもこだわっていかないとチョコレートを手づくりする意味もないのではないだろうか。

(4) 障 害 者

青年学級「にじのはらっぱ」（障害者青年学級）

障害を持った青年が、集団活動をしながらか仲間づくりや基礎的生活習慣を身につける場として実施した。

期 間 昭和63年5月15日（日）～平成元年3月12日（日） 午前10時～午後3時

会 場 公民館および野外

参加者 28人×22回＝616人

回	月 日	内 容	場 所
1	63. 5. 15	開 級 式	公 民 館
2	5. 29	ハイキング	多摩動物園
3	6. 5	室内活動	公 民 館
4	6. 19	〃	〃
5	7. 10	公民館のつどい	〃
6	7. 17	河川清掃	多摩河原、公民館
7	7. 31～ 8. 1	夏期合宿	苗 場
8	8. 21	プ ー ル	福生一中
9	9. 11	室内活動	公 民 館
10	9. 25	スポーツ交流（参加…羽村、青梅）	福生三小体育館

回	月 日	内 容	場 所
11	63. 10. 9	いも煮会、陶芸野焼き	多摩河原
12	10. 23	社会科見学	浅草・隅田川川下り
13	11. 6	市民文化祭	公 民 館
14	11. 27	弁論大会（参加…羽村、秋川、世田谷）	”
15	12. 4	ハイキング	六 道 山
16	12. 18	忘 年 会	福祉会館ホール
17	63. 1. 8	新年会、ゲートゴルフ	福生市民体育館
18	1. 29	ハイキング	日の出山
19	2. 5	ボーリング大会	中神ヤングボウル
20	2. 19	合室打合せ	公 民 館
21	2. 26～27	冬 期 合 宿	那須塩原
22	3. 12	閉 級 式	公 民 館

総 括 今年度より学級生の代表から成る「運営会議」を月1回夜間に実施し、その中で毎回の計画策定、たより書き等をするようになった。そのため、学級生自らがより自分の学級としての自覚を持つようになり、自主的になってきた。

聴覚障害者のための映画会

聴覚障害者のために字幕付き邦画を上映し、映像文化に接する機会を設けた。

会 場 公民館

参加者 69人

月 日	作 品 名	入 場 者 数
5月27日（金）	紳 士 同 盟	10
8月26日（金）	父ちゃんのポーが聞こえる	12
11月25日（金）	ふたりのイーダ	17
1月27日（金）	あぶない刑事	15
2月17日（金）	火 宅 の 人	15

総 括 入場者数は少ないようだが、毎回楽しみにしている固定客もふえてきている。邦画を楽しむ機会の少ない聴覚障害者には、この映画会は貴重な場であろう。

(5) 婦 人

婦人学級「魅力あるお母さんでいるために」

子育てに追われて自分の生活を見失っていないだろうか。自分にゆとりがなければ豊かな育児はできないのではないか。母親だからといって子育ての時期を子供だけのためにすごさなくてはいけないということはおかしいのではないか。

ゆとりある子育ては、ゆとりある母親がなせるものだと、魅力ある子供は魅力あるお母さんの手によって育つものではないか。

子育ては、まず自分を魅力ある母親に育てることから始まっていくのではないかという観点から63年度の保育室併設の婦人学級をプログラムした。

期 間 昭和63年11月11日～平成元年3月4日 毎週金曜日 午前10時～正午

場 所 公民館第2集会室 全15回

参加者 10人×15回＝150人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
11. 11	オリエンテーション	学級の内容と保育室に子どもをあずける意味を説明	
11. 18 11. 25 12. 2	仲間づくり	参加者全員自己紹介をしながら仲間づくりを行った。	
12. 9	身体チェック	自分の身体の若さ度をチェック	
12. 16	保育室の様子から	保母を交えて保育室での子どもの様子を聞く	佐々木京子氏
12. 23 1. 1. 13 1. 20	さあ身体を動かそう	エアロビックスダンスを習いながら、身体と心をリフレッシュする	木下 和子氏
1. 27	保育室の様子から	保母を交えて子どもの生活リズムについて聞く	高崎 文江氏
2. 3 2. 10	家庭と生活チェック	子供の生活リズムやしつけのことについて、各自の家庭がどのように考えているのか出し合い正しいあり方を話し合った	
2. 17	保育室の様子から	保育日誌をどのように読んだか話し合う	突戸 夏子氏
2. 24	保育室の様子から	成長とはどんなことかを話し合う	中村けい子氏
3. 4	自主化にむけて	講演終了後にも自主的な活動が行えるように話し合いをした	

総括 子育てに追われて自分の生活を見失しないがちな母親のために、少しでも人間的な生活、ゆとりを取りもどせるように実施したのだが、どうしても保育室事業との関連があるため、子育てを忘れ、母親というよりも、まず一人の女であるという立場にたって考えることができなかった。これでは、身体をリフレッシュすることはできても心のリフレッシュは難しい。また保育は母親だけがするものではなく、家庭で地域で行うものということを考えて行くまでには至らなかった。

わくわくコミュニケーション

主婦のおかれた現状を学び、そこから自分たちの課題をさぐりだし、主婦が外に目を向けるきっかけとする。

期 間 昭和63年11月14日(月)～3月13日(月)午前10時～12時 全15回
会 場 公民館
参加者 10人×15回=150人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
11. 14	オリエンテーション	講座の説明、自己紹介	
11. 21	まずは私たちの仲間を知ることから	自己紹介	
11. 28	この講座に参加したのはこんな理由です	参加動機	
12. 5	保育室は託児所とは違います	公民館保育室とは	中村けい子氏
12. 12	あなたの毎日充実していますか？	主婦の状況、課題	田中喜美子氏
12. 19	育児書を捨てて外に出よう！	課題解決のために	和田 好子氏
1. 9	外に出たおんな達1～保育室にかかわって	保育室と私	佐々木京子氏
1. 28	ちょっといきぬきフリータイム	前半のまとめ	
1. 30	外に出たおんな達2～タウン紙にかかわって	タウン紙と私	野口由紀子氏
2. 6	子育ては女だけのものじゃない！	男性と子育て	星 健夫氏
2. 13	元気印の子ども達	子どもたちの変化	宍戸 夏子氏
2. 20	私達のコミュニケーションづくり	参加者の企画で	
2. 27	〃	〃	
3. 6	〃	〃	
3. 13	みんなでワクワクパーティー	〃	

総括 婦人問題の視点で講座をくみたてたが、参加者により受けとり方は様々であった。大半は、閉塞された現状を開放していきたいという気持ちをもっている。その気持ちを婦人問題の視点と結びつけるためには、自分たちの状況をだし合い、話し合う時間が少なすぎたようだ。また、新人類といわれる青年層が参加者になってきたこともひとつの要因であるようだ。自分の生き方をみつめなおすきっかけを子育てを通してどう与えていくのか、今後の課題だろう。現在、「ミルキー」として自主活動をつづけている。

おさない子どもをもつお母さんの教室

子育ての悩みを通して、親がどんなはたらきかけをしたらよいか、親の生き方などを考える。

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
6. 9	オリエンテーション	保育室について、これからのすすめ方	
6. 16	自分のこと話しませんか	自己紹介、参加の動機	
6. 23	子育てのこと話しませんか	子育てをされていて悩んでいること、困っていること	
6. 30	保護者学習会	保育室に参加して気づいたこと	宍戸 夏子氏
7. 7	これからのすすめ方	学習プログラムをくみだてる	
7. 14	映画「さくらんぼ坊や」鑑賞	映画をみて、自分の子育てととらしあわせてみる	
7. 21	女性のライフサイクルと問題点	ライフサイクルの変化と課題	富永 静枝氏
7. 28	保護者学習会	子どもの成長とは？	中川キミ子氏
8. 25	再就職をめぐる問題 I	女性が働くことでどんなことが問題になってくるか	富永 静枝氏
9. 1	“ II	“	“
9. 8	“ III	“	“
9. 22	婦人労働の現状	婦人労働の現状と課題	“
9. 29	保護者学習会	仲間の中で育つとは？	中村けい子氏
10. 6	保護者学習会	保育室に子どもをあずけてみてどうだったか	高崎 文江氏
10. 13	講座のまとめ	これからの活動について	

総括 仲間づくりがスムーズにできるように、いくつかのグループにわけて学級ニュースなどを作ってもらった。参加者同士では交流もでき、終了後も続いているようだが、ライフサイクルの変化に伴う婦人労働の問題については、参加者が専業主婦であることや、今すぐに働き出したいという人が少なかったため、もう一步ふみこんだ話しあいにはならなかった。また、レポート提出がめんどうだということで途中でやめていた人もいたが、こういう理由でやめることは担当として初めてのことだった。

女性のための「家庭大工教室」

女性が簡単な家庭大工仕事の技術を身につけることを通して、男の仕事、女の仕事と区別されていることについて考える。

期 間 昭和63年10月26日(水)～12月7日(水) 全6回

会 場 公民館および松林分館

参加者 13人×6回＝78人

講 師 荻原 みどり氏 宮本 一美氏(ハンディ・ウーマン)

月 日	テ ー マ	内 容
10. 26	大工道具あれこれ	大工道具の紹介、使い方について
11. 2	簡単な木工作	かなづちとのこぎりの練習用に箱をつくる
11. 9	壁紙をはりかえる	壁紙のはりかえ方
11. 16	ふすまをはりかえる	ふすまのはりかえ方
11. 30	壁に物を取りつける 障子のはりかえ	いろいろな壁に物を取りつける方法 障子のはりかえ方
12. 7	スライドショー	スライド「変わりゆく女の仕事、男の仕事」を見て 性別役割分業について考える

総括 終了後のアンケートからみる。全体としては、とてもためになったという回答が多くよせられた。やはり女性がこうした技術を学ぶ機会に恵まれていないことのうら返しであると思う。また、最終回の交流会では、アメリカの働く女性のスライドを通して話しあいをしたが、女性が仕事をすることや、性差別について考える機会になったと思う。

女のつどい「シネマ&トーク」

映像を通して女性の生き方、男性の生き方を話しあう。

期 日 昭和63年5月28日(土) 午後2時～6時30分

会 場 公民館

参加者 26人

内 容 映画「カラーパープル」を見て話しあう

助言者 吉田真由美氏(映画評論家)

そこが知りたい、子どものこころ

子どもの立場に立って子どものこころを考えるなかで、真に子どもの成長にとってのかかわり方とはどんなものかを探る機会として実施した。

期 間 昭和63年12月8日(木)～平成元年3月16日(木) 午前10時～正午

会 場 公民館 全13回

参加者 6人×13回=78人

月 日	内 容	講 習
12. 8	オリエンテーション	
12. 15	自己紹介	
12. 22	〃	
1. 12	公民館の保育室って	
1. 19	こどものこころ	岡本富郎氏(白梅短大教授)
1. 26	保護者学習会	矢戸夏子氏(公民館保母)
2. 2	中間のまとめ	
2. 9	おとなのこころ	岡本富郎氏
2. 16	こころの育ちとは	〃
2. 23	保護者学習会	梶谷克子氏(公民館保母)
3. 2	こころのやわらかさ	岡本富郎氏
3. 9	こころへの探検	
3. 16	ま と め	

総括 子どものころをさぐる中で、のびようとする子どものころをすなおに育ててあげるためには、子どもの育ちを見てとれる親の力が必要なことがあらためて確認された。参加者数は話し合いにはもうすこし多い方が良かったようであった。

おかあさんのカメラワーク

カメラ機材にこだわらず、手持ちのカメラを使って子どもの成長の一瞬をフィルムにとどめ、ファインダーを通して子どもの成長や真の姿に目をとめる機会として実施した。

期 間 昭和63年6月24日(金)～7月15日(金) 午前10時～正午

会 場 公民館および中央図書館内暗室

参加者 5人×4回＝20人

講 師 奥村 嘉郎氏(東京工芸大学)

月 日	内 容	場 所
6. 24	子どもの目の高さでとらえる	公 民 館
7. 1	動きをとらえる	"
7. 8	野外ショット	"
7. 15	ネガ現像・プリント現像	中央図書館内暗室

総括 今回は人数が少なめだったので、撮影だけでなく、ネガ現像・プリント現像までもおこなうことができた。この点参加者に好評であったが、中央図書館内暗室では今回の人数でもせまかったなので、人数がふえた場合の場所を考えなければならない。

家庭教育学級＝手づくり絵本＝

子育てをテーマに、手づくり絵本を作りながら、改めて、自分の子育てを見直し絵本の作成を通して、子どもの文化について考える機会とした。

期 間 昭和63年6月10日(金)～10月14日(金) 全15回

会 場 松林分館

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
6. 10	オリエンテーション	自己紹介、保育室説明	担 当 職 員
17	子育てや文化について	子育てや子どもの文化について	〃
24	絵本とは	絵本とは何にかを明らかにする	木住野利明氏（絵本作家）
7. 1	どんな絵本を作ろうか		〃
8	絵本の枠組みを作る		〃
15	子育てを考える	子育て、保育記録を読む	中村けい子氏（保 母）
22	絵本の技法	彩色の技法	木住野 利 明氏
29	絵本の製作	製本の手順、豆本づくり	〃
8. 26	〃	絵本の製作	〃
9. 2	〃	〃	〃
9	〃	〃	〃
15	〃	製本の技術を学ぶ	〃
30	〃	〃	〃
10. 7	絵本の合評	合評会	〃
14	子育てパートⅡ	保育記録を読む	梶谷 克子氏（保 母）

松林保育サークル交流会・学習会

松林分館で共同保育を行なっているサークル間の交流を深めつつ、保育に対する理解を、子どもの発達について学び合う場とした。

期 間 昭和63年4月25日～平成元年3月30日

会 場 松林分館

参加者 105人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
4. 25	情報交換、保育室そうじ	情報交換	
7. 29	保育室のかたづけ	保育室のかたづけ	
11. 17	保育、子どもの現状は	子どもの育ちを考える	加 藤
12. 8	いま、子どもたちは	今日の子どもの現状	〃
3. 30	地域で生き生きした子育ての輪を	集団をどうとらえるのか	平湯紘一氏 “母と子”編集長

主婦 一再就職への設計図

婦人問題の理解とその解決にむけて、主婦の再就職のための資格取得（簿記3級）を目標に 施した。

期 間 昭和63年8月28日（日）～11月27日（日）

会 場 松林分館、扶桑会館

参加者 16人×29回＝464人

講 師 伊藤一夫氏（元職業訓練校講師）

月 日	内 容
8. 8	オリエンテーション、講座の説明、自己紹介、履歴書を書く
9. 3	再就職 — 私の課題、作文をもとに話し合い
9. 4	簿記オリエンテーション、簿記と会計
9. 10	資産、負債、資本
9. 11	勘定と記入、損益の計算、取引、仕訳とは
9. 17	試算表、精算表、決算①
9. 18	現金、預金、有価証券、小口現金
9. 23	三 分 法
9. 24	”
9. 25	掛け売買の記帳
10. 1	決算②、減価償却、貸倒償却
10. 2	”
10. 8	精算表、財務諸表
10. 9	”
10. 15	手 形
10. 22	”
10. 23	債券、債務
10. 29	営業費、資本、税金
10. 30	帳簿と伝票
11. 5	繰り延べ
11. 6	見 越 し

月 日	内 容
11. 12A	答 案 練 習
12P	〃
11. 13A	答 案 練 習
13P	補 習
13N	〃
11. 19	模 擬 試 験
11. 26	検 定 試 験 の 解 説
11. 27	まとめ、主婦労働の現状と課題、これからの自分の将来設計

総 括 たいへん長期間のきつい講座にもかかわらず、根気強く続けた婦人の学習要求には目をみはるばかりだった。それをささえた家族の援助も大きくあったように思う。

3級試験が11月20日に行なわれ、14名中10名の方が合格し、満点合格者も1名いた。今後2級受験に向けて勉強を始めた方もあり、一人ひとりが自分に自信をつけていったようだ。

婦人問題の理解と克服を一方での目標においたが、簿記に流され、いまひとつ参加者の胸におちていないのではと感じた。

女性のための囲碁

最近では女流棋士も注目されている囲碁ではあるが、まだまだ男のもの…という意識も強い。また、子育て以後の地域でのつながりの薄くなっている女性が地域での仲間づくりや、夫婦での共通の趣味をもつことが、人生80年を豊かに生きていくことにつながる一面ももっている。そのようなことを視点におきながら、囲碁の初歩を学ぶ。

期 間 昭和63年7月29日(金)～12月9日(金)

会 場 松林分館

参加者 20人×16回＝320人

講 師 藤井 廣氏(日本棋院普及指導員)

内 容 囲碁のルール、成り立ち、石の生き死に、対局、他

総 括 思ったより多くの方々が参加され「いままでやりたかったけれど……」という声を聞かされた。参加者も熱心で講座終了後、自主的に活動している。

女性のための将棋

視点は囲碁と同じ

期 間 昭和63年7月25日(月)～10月3日(月)

会 場 松林分館

参加者 2人×10回=20人

講 師 栗原 玄氏(日本将棋連盟福生支部)

内 容 将棋のルール、成り立ち、駒の動かし方、捧銀戦法、対局、他

総 括 囲碁と比べ全く人気がなかった。女性の視野の中に将棋というものが入っていないことを痛感した。

家庭教育学級「楽しい子育て入門」

幼児の成長・発達を学ぶとともに、子どもをあずけることを通し、客観的に子育てを見つめなおし、それとともに、主婦のおかれている状況、子育て以後をどう生きるかという視点で実施した。

期 間 昭和63年12月10日(土)～平成元年3月25日(土)

会 場 松林分館、羽村町中央児童館

参加者 9人×12回=108人

月 日	内 容	講 師
12. 10	保育室とは…、子どもをあずけるにあたって…。	
12. 17	作文をもとに自己紹介	
12. 24	ケーキづくりを通して、お互いの親睦を深める クリスマスパーティー	佐々木京子氏 (専門家)
1. 7	映画「アリサーヒトから人間への記録」を観る	
1. 14	私の子育て — 子育ての先輩から —	宍戸 夏子氏(保育者)
1. 28	フォーカス(保育日誌)の読みとり	
2. 4	私の子育て — 子育ての先輩から —	梶谷 克子氏(保育者)
2. 11	プラネタリウムを観たのち、あそぶ	
2. 25	あたり前の育児 — 子育てはたやすい —	斉藤 次郎氏(評論家)
3. 4	あたり前の育児 — 子どもの世界をどうみるか —	〃
3. 11	子育て以後の私の生き方	富永 静枝氏 (白梅短大教授)
3. 25	保育室に参加して、まとめ	高崎 文江氏(保育者)

総括 今回は土曜日に設定し、夫婦での参加を期待したが、夫が休みの人が多くいたにもかかわらず、参加はままならなかった。しかしながら、妻が保育室に参加している間、1才未満の子どもを自分でみるなど協力的な面ものぞかせてくれた。

終了後、自主的に活動を継続しているようだが、未だ軌道にのっていないようだ。

幼児教育学級

都市化・核家族化の中、地域の日常での人と人とのつながりの薄れは、幼児にとっては少数子・近隣接触薄での遊びの（知恵の発達）機会減少。親にとっては育児力を身につける交歓の機会の減少となってきた。そこで、幼児がどのように成長・発達をとげていくかを見つめ、子どもの発達環境づくりを考え、親同士の地域のよき仲間づくりに向け、以下のように実施した。

期 間 昭和63年6月8日（水）～10月5日（水） 午前10時～正午 全14回

会 場 白梅会館

参加者 10人×14回＝140人

	月 日	内 容	備 考
1	6月 8日	オリエンテーション・自己・内容紹介	話し合い紹介
2	15日	私達の育児の実際から、その課題 I	話し合い
3	22日	” II	”
4	29日	保護者学習会 保育室での子どもの様子	保育者報告と話し合い
5	7月 6日	幼児期の発達と原体験	大堀容子氏（幼児教育研究者）
6	13日	動作・行動からの発達の理解と応答	同 上
7	20日	保育室での子どもの変化（親の目から）	話し合い
8	27日	保護者学習会 保育室だよりから	保育者と親の交歓から
9	8月31日	生物としての人間と育児	宮岡一雄氏（明治大学教授）
10	9月 7日	この夏の子ども達と私達（親子）の様子	話し合い
11	14日	保護者学習会 運営会議・たよりから	保育者と親の交歓
12	21日	青少年期の発達 非行と幼児期（親子）	川辺 進氏（保護司）
13	27日	子育てを巡る地域の仲間づくりと公民館	話し合い
14	10月 5日	運営会議、この学級・保育室に参加して	保育者・親・職員の話し合い

※ 学級終了後、自主グループとして活動開始となる。

『しらうめ婦人のひろば』

現代の社会変化の中で、婦人の生活は家庭生活のほかに、様々な形態で仕事をもつようになってきている。加えて、生活年齢上の課題の変化・解決を含め、子育て以後の生き方・生活づくりが求められている。そこで、婦人の新たな地域での人と人とのつながりを得、生活づくり・社会動向・まちや福祉をとらえる機会として、以下のように実施した。

「出会い、ふれあい活動」

ふれあい、仲間づくり、生活を交わし合うための総合活動として実施。

期 間 昭和63年10月17日(月)～3月30日 午後7時30分～10時

全9回

会 場 白梅会館

参加者 15人×9回＝135人

	月 日	内 容	備 考
1	10月17日	婦人のひろば紹介、老人ホーム・ボケ	紹介と話し合い
2	24日	ゴキブリ退治だんごづくり(発生苦慮から)	つくり方講習・作業
3	11月14日	うたとよもやま話し(老ホと市民文化祭)	話し合い
4	11月28日	婦人の健康と市健康センターの仕事	市健康センター 阿部
5	12月 9日	忘 年 会	年末懇親会
6	1月 9日	天皇崩御 皇室の社会	話し合い
7	2月13日	うたとよもやま話し	〃
8	3月13日	異質な人・場でのコミュニケーションづくり	話題提供 大堀容子氏
9	3月20日	今年度のまとめとこれから	話し合い

※ 4月以降自主活動。 白梅利用者発表会の参加企画・準備等の実施。

「婦人のひろばスポーツ・レクリエーション活動」

中・更年期の婦人の心身のリクリエイトにむけて軽スポーツ・レクの実施。

期 間 昭和63年11月7日(月)～平成元年3月6日 午後7時30分～10時

全5回

会 場 白梅会館・熊川体育館

参加者 15人×5回=75人

	月 日	内 容	備 考
1	11月 7日	中・更年期の婦人の健康・体力・運動	指 導 吉野チエ氏 (市体育指導委員)
2	12月 5日	リズム軽体操とインディアカ	
3	1月23日	ストレッチ体操とインディアカ	
4	2月 6日	インディアカ交流ゲーム	
5	3月 6日	体を害したときの心と健康の幸せ	

「婦人懇談会」

婦人の生活創造に必要な、社会動向、福祉等に関する研究・懇談の機会として実施した。

期 間 昭和63年10月31日(月)～平成元年2月27日 午後7時30分～10時

全6回

会 場 白梅会館

参加者 15人×6回=90人

	月 日	内 容	備 考
1	10月31日	挨拶・はなし言葉・敬語について	川辺 進氏(保護司)
2	11月21日	老人ホーム 設置基準・運営	〃
3	12月12日	私達の老後と地域福祉	倉橋良子氏(老後問題研究者)
4	1月30日	日本の高齢者福祉 欧米比較から	〃
5	2月20日	婦人の生活と税、今消費税について	持田 力氏(税理士)
6	2月27日	21世紀の都市と婦人の生活	松田雄孝氏(大東学園専門学校)

(6) 成 人・一 般

市民文化教室

1. 主 催 福生市公民館・福生市文化連盟
2. 目 的 多くの市民に趣味や実技、教養に関する初歩的学習の機会を提供することによって、市民の文化諸活動への参加を促し、市民文化活動の拡大に役立てる。
公民館は、連盟の力を伸ばすとともに、市民の学習の場を拡大していく。
文化連盟は、連盟の持つ力を市民に提供することによって、市民文化形成のリーダーの役割を果たすと同時に、組織の拡大（参加者や学習面）に役立てる。

文 化 連 盟 共 催 （ 8 コース）

コース	開 講 期 間	内 容	指 導 者	参加人員
尺 八	8月 4日（木）から 全10回 夜間	都山流尺八の解説と初歩の 奏法	城戸 皓山氏	80人
社交ダンス	9月 12日（月）から 全10回 夜間	初心者対象の基本ステップ	長島 正穂氏	340人
民 謡	8月 5日（金）から 全10回 夜間	佐渡おけさ、両津甚句	沢田 春駒氏	210人
茶 道	9月 2日（月）から 全10回 午後	久田流点前の基礎	杉浦 晃陽氏	80人
民 踊	8月 20日（土）から 全10回 午後	幸せばやし、尾鷲節 他	東山 夢福氏	130人
編物手芸	8月 8日（木）から 全10回 午前	秋冬のベスト、冬物プル オーバー	堂田きよ子氏	100人
書 道	9月 2日（金）から 全10回 午前	初心者向けのかな、漢字	私市 石蘭氏	270人
人 形	8月 4日（木）から 全10回 午後	木目込人形の作成	酒井 虹晨氏	80人

公民館主管コース（３コース）

コース	期 間	内 容	指 導 者	参加人員
初 心 者 ワープロ 教 室	6月29日（水）～ 7月 2日（土） 午後 全4回	ハンディタイプのワードプロ セッサの基本操作と簡単な 文章作成	遠藤理恵氏 井梅靖子氏	60人
	11月30日（水）～ 12月3日（土） 午後 全4回			40人
ステンド グ ラ ス 教 室	6月10日（金）～ 12月16日 午後 全25回	直径28cm 高さ18cmのブ ドウ柄のティファニーランプ シェードの作成	津田映子氏 鹿住雅子氏	200人

こだわり講座「新そばを打つ」

グルメブームといわれているが、本当の本物とは何だといわれると返答に困るところがある。
それは自分で作っていないからではないかという発想から、また自分で作った物が一番うまいの
ではないかという考えから、出来、不出来はともかく、とりあえず本物を作ることにこだわってみた。

期 間 昭和63年11月9日、16日

場 所 公民館調理室

参加者 16人×2回＝32人

月 日	内 容	講 師
11. 9	新そば粉を材料に、講師の実演のあとアドバイスを受けながら こね延ばし、たたみ切る作業を行った。そば粉とつなぎの割合 は6対4	豊隅 正樹氏
11. 16	そば粉とつなぎの割合を8対2とし、講師のアドバイスを受け ないで自分の力ですべて作った。作った物を講師のものと比較 した。	

総括　　こだわり講座という名前にしては、そばというものを粉から麺にただけのものでただそばを打つ技術を習得しただけであった。本当にこだわるということは、そば粉の段階から自分で作って初めて「こだわり講座」という名前がふさわしいのであろう。

オフセット印刷機操作講習会

公民館では社会教育団体への援助の一つとして、オフセット印刷機の貸し出しをおこなっているが、利用者の中で印刷機に精通している人はほとんどいない。そこで、サークル活動のチラシ、パンフレット等の印刷を独自におこなえるようにするため、講習会を実施した。

期 間　　昭和63年10月29日(土)　午後1時～3時　午後7時30分～9時30分
全2回

会 場　　公民館

参加者　　1回目　9人　　2回目　6人　　計15人

月 日	内 容	講 師
10. 29	オフセット印刷機の操作についての説明、実習	佐藤 勝貫氏

総括　　初めておこなった講習会のためか参加者は少なかったが、その分実習に十分時間がとれ、参加者全員が一応印刷機の操作方法をマスターできた。

講座「どうかわる消費税社会」

シャープ税制以来の抜本的税制改革である消費税導入が、市民の生活にどのような影響を与え、何を求めるものなのかを採る機会とした。

期 間　　平成元年2月9日(木)～3月9日(木)　午後7時30分～9時30分

会 場　　公民館

参加者　　11人×5回＝55人

月 日	内 容	講 師
2. 9	消費税の骨子	斉 藤 明 氏 (創 価 大 教 授)
2. 16	消費税の基本的仕組み	
2. 23	課税対象・納税義務者	
3. 2	免税・非課税	
3. 9	一般生活に与える影響	

総 括 実施直前ということで、もっと反響があるかとも考えていたがそうでもなかった。
参加者の内訳では事業者が多く、一般消費者の立場の人が少なかった。

ほほえみフェスティバル

ボランティアを欲する団体、ボランティア活動をしたいサークルが一堂に会する場をもうけ、一般市民も含めて「福祉」について肩ひじ張らず語り合う場として実施した。

期 日 昭和63年9月18日(日) 午前10時～午後3時

会 場 公民館、福祉会館および福生公園

内 容 福祉映画会、交流会、おもちゃ図書館、れんげ作業所手作り品即売、不用品バザー

総 括 たんなるバザーめあての参加者も多く、またバザー終了時刻が一定しなかったため、交流会への参加者が少なかった。

16ミリ発声映写機操作講習会

16ミリ発声映写機の操作技術の修得と、視聴覚教材の知識を身につける機会とした。

期 間 昭和63年6月23日(木)～26日(日) 午後7時～10時

(26日のみ午前9時～午後4時) 全4回

会 場 公民館

参加者 6人×4回＝24人

月 日	内 容	講 師
6. 23	視聴覚教育と操作方法の講習	矢 本 敏 行 氏
6. 24	16ミリ映写機操作講習	佐 藤 勝 貫 氏 上 島 茂 氏
6. 25	〃	
6. 26	個別操作と修了式	

総 括 講習会での修了証取得者にその映写技術を生かす機会を設けるためにも、映写技師を求める側とのスムーズな橋わたしの方法を考える必要がある。

市民大学講座・法律「高齢者の雇用問題（高齢者雇用安定法）」

定年60才、年金支給開始65才時代を控え、今後の不安なき高齢者の雇用環境を確保していくための方策をさぐる中で、高齢化社会を考える機会として実施した。

期 間 昭和63年10月27日（木）～12月1日（木） 午後7時30分～9時30分

会 場 公民館

参加者 7人×5回＝35人

月 日	内 容	講 師
10. 27	高年齢者雇用の現状	檜 崎 二 郎 氏 （学芸大名誉教授）
11. 3	〃	
11. 10	定年制の合法性	
11. 17	高年齢者の雇用の継続・促進	
12. 1	シルバー人材センター、まとめ	

総 括 人数は少なかったが、高齢者事業団理事をはじめ、壮年者層を含めての参加者で話し合いは福生の高齢者問題等まで、つっこんだ話し合いができた。

第7回 公民館のつどい

公民館利用者相互の交流と親睦を深め、公民館で活動する意味を考える機会として実施した。

期 間 昭和63年5月26日(木)～7月25日(月)

実施日 昭和63年7月10日(日)

会 場 公民館

参加者 200人

月 日	テ - マ	内 容
5. 26	第1回実行委員会	予算説明、当日の時間設定、全体会・分科会の検討
6. 8	第2回実行委員会	分科会のテーマ決定、イメージテーマ決定
6. 22	第3回実行委員会	分科会の内容決定、全体会、広報の内容決定
7. 6	第4回実行委員会	部屋割り、最終確認
7. 10	公民館のつどい	つどい当日
7. 25	つどいをふりかえる会	つどいをふりかえる話し合い

総 括 話し合い中心のつどいも2年目をむかえ、各分科会、全体会(ティーパーティ)、
広報とも内容が充実してきた。

公民館(本館)利用者研修会

公民館を利用しているサークルが情報交換や交流をはかり、またふだん使っている公民館のことを考える機会として実施した。

期 間 平成元年3月8日(水) 午後7時30分～9時30分

会 場 公民館

参加者 40人

月 日	内 容	講 師
3. 8	元気のでる公民館利用法	重本弘子氏(前東村山市公運審委員)

総 括 公民館利用サークル数にしては参加者が少なく、今後より広範に自分達の使う公民館について考える機運をもちあげる必要を感じた。

教育講座

今日の教育問題の背景を3つの視点から明らかにする。(1) 戦後の教育の歴史を通して、
(2) 三多摩の教育運動から学ぶ、(3) 臨教審の答申で教育はどう変わっていくのか。この3点を通して今日の教育状況を学ぶ機会とした。

期 間 昭和63年11月28日(月)～平成元年3月3日(金) 全9回

会 場 松林分館

参加者 72人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
11. 28	私の受けた教育	戦後の教育体験を語る	担 当 職 員
12. 6	親として教育を見つめて	三多摩の高校増設運動から学ぶ	福永 笑子氏 (三高運)
	教育制度を考える	教育行政を考える	前橋 弘子氏 (調布P研)
1. 30	子どもの世界はどうなっているのか	中学校教育を中心に今日の子どもの様子を明らかにする	林 友三郎氏 (教育評論家)
2. 6	戦後の教育の歩み(1)	戦後教育の出発とその理念	徳武 敏夫氏 (法大講師)
2. 13	戦後の教育の歩み(2)	'50年代の教育をめぐる二つの流れ	
2. 20	戦後の教育の歩み(3)	落ちこぼれと新幹線授業の背景	
2. 26	戦後の教育の歩み(4)	'80年代の教育政策の背景を考える	
3. 3	これからの教育は…	臨教審答申の問題、課題を考える	伊崎 暁生氏 (日本教育学会 常任委員)

準備会を8回開いている。

“戦後史を学ぶ”講座

期 間 昭和63年5月25日～9月28日

会 場 松林分館

参加者 120人

月 日	テ ー マ	講 師
5. 2 5	オリエンテーション、自分史年表作成	担 当 職 員 川 村 善 二 郎 氏 (歴 史 学 者)
6. 1	歴史学とは何にか	
6. 8	廃墟の中から立ちあがる人々	
6. 1 5	戦後民主化をめぐる	
6. 2 2	占領政策の換の中で	
6. 2 9	冷戦と日本	
7. 6	日本の岐路、平和と独立をめぐる	
7. 1 3	教育の民主化＝その光と影、さまざまな民衆運動	
7. 2 0	教科書の問題をめぐる	
9. 1 4	戦後の私の歩み（自分史を通して）	
9. 2 1	”	
9. 2 8	ま と め	

戦後史を学びながら、自分史年表作成を通して、福生の戦後史を明らかにして来た。年齢層は 80才代から30才代まで、年代は50年間の開きがあった。若い参加者にとっては、年配者の語る話しが、1つの歴史的証言となった。また、論議の中で、その意味を共有することが出来、豊かな資料と共に、大事な学習の機会になった。

語学学級＝ことばの会＝

「学習権を承認するか否かは、人類にとって、これまでもまして重要な課題になっている。

学習権とは、読み書きの権利であり、問い続け、深く考える権利であり、想像し、創造する権利であり、自分自身の世界を読み取り、歴史をつづる権利であり、あらゆる教育の手だてを得る権利であり、個人的、集団的力量を発展させる権利である。」と1989年のユネスコ国際成人教育会議は宣言した。何等かの事情で日本語の読み書きを学習することが不十分であった人々がいて、文字を確得していないために、さまざまな生活上の困難に出合うばかりか、生活そのものを非常に狭いものにしている。そうした意味で、学習権の最も基本である読み書きの権利を、基本的人権の1つとして保障する必要がある。日本語の読み書きの学習の場として開催した。

日 時 昭和63年5月2日～平成元年3月27日

会 場 松林分館

参加者数 187人

月 日	テ ー マ	講 師
5. 2	オリエンテーション	高 崎 伊 平 氏 (元小学校校長)
5. 9	文学作品を読む“最後の一葉” オーヘンリー作	
5. 16	”	
5. 23	”	
5. 30	”	
6. 6	「言葉を学ぶ」 柴田 武著	
6. 13	”	
6. 20	”	
6. 27	「オッペルと象」 宮沢 賢治	
7. 3	”	
7. 10	オッペルと象、漢字テスト、作文を書く	
7. 17	”	
9. 5	文学作品を読む“むく、はと十著、“ひとりぼっちのつる”	
9. 12	「ひとりぼっちのつる、“オッペルと象」	
9. 19	”	
9. 26	”	
10. 3	かえるの京まいり	
10. 19	さるかにばなし、 「井戸」 千葉省三著	
10. 24	”	
10. 31	虫けら “大関松三郎著”「山芋」より	
11. 7	ユネスコ学習権宣言を読む(1) 文学作品、川とノリオ	
11. 14	”	
11. 21	”	
11. 28	”	
12. 5	ユネスコ学習宣言、憲法を読む、佐田稲子「水」を読む	
12. 12	作文を書く	

月 日	テ ー マ	講 師
12. 19	文集づくり	高 崎 伊 平 氏 (元小学校校長)
1. 23	「水」 佐田稲子著を読む	
1. 30	〃	
2. 6	「飛たつサル」 すみいすえ著	
2. 13	〃	
2. 20	〃	
2. 27	「セメント標の中の手紙」 葉山嘉樹著	
3. 6	〃 作 文	
3. 13	〃 作 文	
3. 20	山びこ学校答辞、佐藤藤三郎を読む	
3. 27	閉 級 式	

「高齢化社会を考える」 講座

高齢化社会が進む中で、(1) 高齢者福祉の実態を明らかにし、(2) 地域の高齢者福祉政策を考え、(2) 地域における高齢者の健康の実態 (4) 老後を支える経済条件がどうなっているのか、特に年金問題を中心に考えていく機会とした。

期 間 平成元年2月2日(木)～3月17日(金) 全6回

会 場 松林分館

参加者 30人 準備会を3回開いた。

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
2. 2	高齢化社会とは、	高齢化社会の課題を出しあう	加藤有孝氏 (担当職員)
2. 9	地域の中で高齢者福祉の実態は、	福生の高齢者福祉の実態	北村 章氏 ケース ワーカー
2. 16	老後の健康を考える＝地域の実態から	福生の老齢の健康実態	安部セツ氏 (保健婦)

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
2. 23	「福生市における老人のくらしと在宅福祉への提言」を読む	話し合い	担当職員
3. 10	老後の経済 Ⅰ 年金を考える	日本の社会保障と国際比較しながら検討	富永静枝氏 (白梅短大)
3. 17	老後の経済 Ⅱ 年金を考える	年金改正の問題点を考える	

ホビー教室 金工作

週休2日制の増える中で、婦人労働者や成人男子が、金工作の基本を習慣し、ホビーの楽しさを経験出来る場とし、さらに、地域での人と人との出会いの場として開催した。

期 間 昭和63年11月5日(土)～12月17日(土) 全7回

会 場 松林分館

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
11. 5	ローソク立てを創る (電気スタンドを創る)	自己紹介、スリ板作り	担 当 職 員
11. 12	〃	図案作成、きりまわし	石 橋 初 子 氏 (彫金家)
11. 19	〃	切りまわし	
11. 26	ロウづけの技術	ロウ付の技術と実際	
12. 3	作品の製作	作品の製作	
12. 10	〃	〃	
12. 17	〃	合評会	

くらしと健康を考える「心療内科医からみた心とからだの健康」

ストレス社会といわれる今日、ビジネスマンの消化性潰瘍やうつ病、燃えつき症候群等……
また、家庭内では台所症候群やキッチンドリinker、家庭内不和など……、また青年期のピーターパンシンドロームやシンデレラコンプレックス等、様々なストレスからくる諸症状に私たちの生活は悩まされている。

ストレスに勝ち、自分自身をみつめ、よりよく生きるための知恵を学ぶ。

期 間 平成1年3月9日(木)～3月30日(木)

会 場 松林分館

参加者 12人×4回=48人

講 師 山本 晴義氏(医学博士、梅田病院院長)

月 日	内 容
3. 9	心療内科とは、心身症とは、あなたのストレス度は、
3. 16	自分の性格を知ろう、交流分析、エゴグラムを描いてみよう
3. 23	自律訓練法でリラックスしよう。 高血圧のはなし
3. 30	こころを育む知恵

体の訴えは心の状態をあらわしている……ということを参加者ひとり一人が確認したようだ。

講座を設定する上で担当者自身が対象を明確にすることができず、全体的にしぼりこむことができなかった。内容については、参加者の質問等も含め、身近かな問題としてとらえられたように思う。

ロンデーフラワー 一日講習会

アートスペース・1-15 との関連の中で実施した。初心者を対象としたロンデーフラワーの講習会。

期 間 昭和63年7月11日(月)

会 場 松林分館

参加者 8人×1回=8人

講 師 沖野 光江氏(ロンデーフラワー研究家)

内 容 ロンデーフラワーの実技講習 (基本と「ききょう」の習得)

総 括 午後の時間帯に設定したため、婦人の参加だけであったが、それぞれが楽しくロンデーフラワーを実習した。サークルのメンバーにも協力をいただいたが、参加者の中には継続的にやりたい人も出て、サークルに入った人もいた。

松林木工作教室

手づくりのあたたかさ、木のぬくもりをふんだんに取り入れた日常生活グッズの製作、今年度はティッシュペーパーボックスに挑戦した。また木工作の基礎的な技術の習得を目指した。

期 間 平成1年2月4日(土)～3月25日(土)

会 場 松林分館

参加者 6人×6回=36人

講 師 秋池 俊彦氏(職業訓練校)

月	日	内 容
2.	4	教室の説明、自己紹介、三角法で設計図面をひく
2.	18	木取り、寸法ぎめ、基準面づくり
2.	25	〃
3.	11	加工、ほぞ等の加工
3.	18	組み立て
3.	25	仕上げ、仕上げかんながけ、ペーパーがけ、オイルぬり

総 括 今年度はタモを使った。材料の乾燥がいまひとつだったため、せっかくとった基準面が、そり等でやり直しという場面がよくあった。タモは堅く、加工に手間だったが、木目の美しさはピカイチで、出来上がりに満足なようだった。今年は男性の参加が目立った。

アートスペース1-15

地域の手づくりの作品、サークルの発表などの場として、松林のロビーを利用し、一定のスペースを作った。今回は初めてということもあり、主催事業との関連の中から実施した。

① ロンデーフラワー作品展

期 間 昭和63年7月11日(月)～24日(日)

② 木工作展

期 間 昭和63年8月22日(月)～9月4日(日)

総括 初めての試みとして実施した事業ではあったが、当初2ヶ月に1回程度を目算としていたができなかった。

松林に足を運んでいる方々からは、「すばらしい」等の声が多く寄せられたが、観覧者を集約していないので、わざわざ見に来てくれた人がどれくらいいるのかは、全くわからなかった。（多分少ないのではないだろうか？）

今後、継続的に実施し、市内のプロ芸術家等の作品も含めて実施できたらと考えている。

松林ひだまりハイキング「六ツ石山」

冬枯れの穏やかな一日、奥多摩の山歩きを楽しむ

期 日 平成1年3月26日（日）

場 所 奥多摩石尾根 — 六ツ石山

参加者 17人

講 師 佐久間直冬氏、佐藤克年氏、野村 亮氏

電 車
コース 福生駅 ————— 奥多摩駅……………石尾根……………六ツ石……………石尾根……………奥多摩駅

電 車
————— 福生駅

総括 3日前に雪が降ったため、コースを変更して実施した。ところどころ雪が残っていたが、予想よりもはるかに雪がとけていたため、天気にも恵まれ楽しい山行ができた。頂上から見えた南アルプスの山々に、疲れもふぎとび、皆満足そうだった。

松林ホームシアター

主に子どもたちに、すぐれた映像文化、生の人形劇の舞台等、深い芸術性にふれる機会として実施した。

月 日	内 容	上 映 時 間	参加人数
4. 9	アリサ — ヒトから人間への記録 —	午後2時	30人
10	〃	午前10時30分	15
5. 21	わんぱくバック	午後2時	18
	〃	午後3時30分	2
6. 25	栄光の背番号3	午後7時30分	15
26	〃	午後2時	15
7. 16	トムソーヤの冒険	午後2時	60
	〃	午後3時30分	15
8. 11	シネマフェスティバル — For Peace — (別 掲)	午後1時30分	20
8. 12		午後7時30分	10
		午前11時	40
		午後1時30分	3
8. 13		午後7時30分	10
		午前11時	20
		午後1時30分	10
		午後7時30分	2
9. 17	人形劇 「猪八戒化け物をおんぶする 他」 劇団 どら	午後2時	100
10. 22	竜の子太郎	午後1時	83
	ルパン三世カリオストロの城	午後3時	138
23	〃	午前10時30分	93
11. 19	おてんばルッチー	午後3時	15
20	〃	午前10時30分	15
12. 10	よい子のたのしいクリスマス、こんにちは風 さん	午前11時	30
	〃	午後1時30分	40
1. 21	雪の下のしずかなおはなし	午前11時	15
	〃	午後3時	20
2. 18	若草物語	午後2時	46
19	〃	午後2時	21
3. 11	桃次郎の冒険	午後3時	23
12	〃	午前11時	23

松林シネマフェスティバル — For Peace —

月 日	上 映 時 間	内 容
8. 11	午後1時30分 7時30分	対馬丸 —さようなら沖縄— 裸で狼の群の中に
12	午前11時 午後1時30分 7時30分	象のハナ子 チャップリンの兵隊さん ひまわり
13	午前11時 午後1時30分 午後7時30分	おかあちゃんごめんね、トビウオのぼうやはびょうきです 8月9日長崎 ひまわり マルシカの金曜日

だれでもなんでも展（松林分館文化祭）

地域に開かれた文化祭をめざし、1）地域の中で、こつこつと作品を作っていたり、日常生活の中で行われている文化的な営みを掘りおこし、そうした人々を地域でつなげていく。2）そうした人々をつなげる役割を分館利用者が担っていく。3）サークルの活動を発表し、地域にひろげていく、という三つの柱をもとに、利用者交流会が主体となり、実行委員会を結成し、準備、実施にあたった。

○準備日程・内容

- | | |
|-----------|---|
| 7. 16（土） | 日程の決定、イメージ等の話し合い |
| 7. 23（土） | イメージ等の話し合い、テーマの決定 |
| 9. 10（土） | 実行委員長等の決定、その他役割分担の決定 |
| 9. 19（月） | よびかけ文の検討、決定、参加サークルの内容等の集約 |
| 10. 1（土） | 参加サークル内容集約、内容についての検討、ポスター、チラシ原案完成、一般募集作品の集約 |
| 10. 8（土） | ポスター、チラシの配布、演示タイムテーブル決定、その他内容の詳細決定 |
| 10. 15（土） | 展示会場の割り付け、一般作品の応募状況について、当日役員体制の決 |

定、前日準備打ちあわせ

10. 21 (金) 前日準備

10. 29 (土) 反省会

○参加者 19人×9回=171人

○今年のテーマ みてみて、！ —私の手づくり あなたの手づくり —

○当日のプログラム

10月22日(土) 午後1時～5時

○展示コーナー(分館利用サークル作品、活動紹介、一般応募作品等の展示)

○映画「ルパン3世カリオストロの城」「竜の子太郎」

○ソロコンサート

○喫茶コーナー

10月23日(日) 午前10時～午後4時30分

○展示コーナー

○映画「ルパン3世カリオストロの城」

○おはやし

○語り(劇団ファンタスティック)

○ジャズ演奏

○コーラス(コーラス虹)

○喫茶コーナー

○竹細工コーナー

○模擬店(やきそば・とん汁・ポップコーン)

○展示作品総数 773(一般535、利用サークル238)

○出品者・団体数 78(一般63、利用サークル15)

○参加サークル 26団体

○延入場者数 3,084人

松林分館利用者交流会

利用者相互の交流、館との連絡調整などのために実施した。

日 時	内 容
6. 30 (木) 午前10時～正午	昭和63年度松林分館の事業について、公運審のながれ、だれでもなんでも展について、公民館のつどいについて、情報交換、その他 (参加者 10人)
9. 10 (土) 午後8時30分～ 9時30分	公運審委員の推薦について (参加者 15人)

総 括 今年度は2回しか実施できなかった。定例的に開催できない……との思いに悔いが残る。

サークルリーダー同士の交流、情報交換もかなりすすんでいる。今後、利用者相互の組織として、自主的にすすんでいけばよいのだが……。

私たちのまちづくり

来るべき高齢化社会に対しては、各自治体で真剣な取り組みが始まっている。福生市でも「情報化」「国際化」をどのようにすすめるかが、色々な機会に話題となっている。

現実的には、今まで行政側の情報が市民の側に流れるようなことが少なかったが、これからの時代に「市民不参加のまちづくり」はそぐわない。今回は、行政側の情報も含めて、今日この福生市や三多摩がどのような流れの中で働いて＝動かされているのかを知る機会とし、合わせて市民が参加するまちづくりのきっかけになるように考え実施した。

期 間 昭和63年11月20日(水)～平成元年2月1日(水) 全8回

会 場 白梅分館

参加者 延べ人数96人

日 時	テ ー マ	内 容	講 師
11. 30	まちとは何か？	まちの発生と歴史的な意味を考える	宮岡 一雄氏
12. 7	三多摩の現状と将来 1	三多摩の置かれている状況や展望を語る	鳥海 賢三氏
12. 14	三多摩の現状と将来 2	豊かな将来像の“影”の部分を知る	大和田一紘氏
12. 21	情報化社会とは？	情報化社会と私たちの生活の変化を知る	佐藤 正幸氏
1. 11	福生市の現状と将来	福生市の将来像と今日の行政課題を聞く	野澤 久人氏
1. 18	市民の語る国際化 1	意欲的な取り組みの商店主に聞く	伴内伊三郎氏
1. 25	市民の語る国際化 2	外国人から見た国際化とは何か？ (同時通訳)	TED MILLER 本間マリ子氏
2. 1	私たちのまちを語る	参加者同士の構想を語り合う	

総 括 第4次全国総合開発計画＝4全総や東京都の長期計画に定める福生市は、全くないに等しい。このような状況の中での福生市の将来像は、誰がどのように決めていけるのだろうか。もちろん市民の参加によるまちづくりしかないと思うのだが、今の段階では市民が判断するための情報は、極端に少ない。今後は、社会教育のセクションから積極的に行政当局に資料や情報の提供を要求していく必要があると思う。

P T A っ て 何 ？

毎年新しい役員が決まり P T A 活動を始めるわけだが、役員になる人がしかたなくやっているのが現状ではないかと思われる。

P T A が始まって 40 年の歴史がありながら、内容的にはあまり変化していない部分も多い。今回は P T A の基本にもどり、少しでも参加者が納得して帰れるように考え実施した。

期 間 昭和 63 年 5 月 26 日（木）～ 7 月 7 日（木） 全 7 回

会 場 白梅会館

参加者 延べ人数 32 人

日 時	テ ー マ	内 容	講 師
5. 26	P T A とは何か	今日の福生市の P T A の問題点を探る	
6. 2	P T A の現状	各地の抱えている問題を話合う	後藤重三郎氏
6. 9	P T A の歴史	戦後の歩んできた歴史をふりかえる	同 上
6. 16	民主的運営とは	運営や組織の形態を考える	同 上
6. 23	P T A と地域関係	地域とのつながり方を考える	同 上
6. 30	今日的な問題と P T A	いじめ・進学問題等と P T A の取り組み	同 上
7. 7	まとめ	今後の活動と公民館の関係	

総 括 熱心な参加者と順番で参加している役員とのギャップが大きく、話の展開が思わぬ方向にいくことがあった。経験の多い人ばかりではないのを差し引いても、参加する意欲の差が大きいと思った。

自然観察会

期 間 昭和63年6月5日(日)～平成元年3月19日(日) 全8回

会 場 市内河原・滝山丘陵・高尾山

参加者 延べ人数195人

今日では、食品汚染・放射能汚染などの環境汚染の問題などが日常的な話題になってきているので、日常の身の回りの自然を観察する重要性が増大していると思われる。

そこで、身近かな自然の仕組みと働きを知り、私たちの生活との関係を知る機会として実施した。

日 時	テ ー マ	内 容	講 師
6. 5	植物観察会	春の河原の植物観察	宮岡一雄氏
9. 3	鳴く虫の観察会	鳴く虫を通して昆虫の生息条件を知る	栗原 仁氏
12. 4	野鳥観察会	久しぶりの水鳥を中心に観察する	岡田紀夫氏 栗原 仁氏
2.19	野鳥観察会	冬鳥のカモ類を中心に観察する	
2.26	野鳥観察会	草原の冬鳥を中心に観察する	
3. 5	植物観察会	植物の冬芽を観察する	宮岡一雄氏
3.12	野鳥観察会	滝山丘陵に住む冬鳥の観察をする	岡田紀夫氏 栗原 仁氏
3.19	野鳥観察会	高尾山の冬鳥の観察をする	

総括 今年は雨が多く予定していた植物観察会と水生昆虫観察会がそれぞれ中止になってしまった。日常的に目にすることのできる自然としての河原や近くの丘陵の果たす意味が、福生市民にとっては大きな意味を持っていることが、改めてよく分かった。

白梅親子映画会

乳幼児や小学校低学年の子ども達の行動半径は大体親の行動によって規定されてしまう。そこで、身近かなところで内容の豊かな映像を見る機会を提供するつもりで実施した。

期 間 昭和63年7月16日(土)～平成元年3月11日(土) 全9回

会 場 白梅会館

参加者 延べ人数285人

日 時	上 映 フ ィ ル ム 名	参加者数
7. 16	・スイミー ・クマのプーさん	70人
8. 27	・鹿鈴 ・ヒキガエルの発生 ・地球の自転など	10
10. 1	・季節と生き物の様子 ・アラジンと不思議なランプ	40
11. 19	・おてんばルッチー	30
12. 10	・よい子の楽しいクリスマス ・こんにちは風さん	40
1. 21	・ゆず ・白い鳥	30
2. 18	・若草物語	30
2. 19	・若草物語	15
3. 11	・桃次郎のぼうけん	20

総括 自然に関するフィルムをいくつか上映してみたが、子ども達には比較的好評だった。各社会教育施設で上映しているので、館独自の方向を打ち出してもよいと思う。

「第7回白梅会館利用者発表会」実行委員会

① 日頃の公民館活動の成果の発表。② 個々のグループが同一の目標に向かって活動することにより、交流・親睦を深める機会。③ 公民館活動を地域に広め、市民（熊川）の文化創造の“ひろば”となることを目標に、昭和63年5月を目処に、実行委員会を組織し、準備を進めた。

（実施期日、会場、参加者は以下の表のとおり）

実 施 日 時	内 容	参 加 者
昭和63年4月3日（日） 午前10時～正午	展示のひろば打合せ 出展種目、数量、部屋割、展示レイアウト	10団体12人
4月 3日（日） 午後1時～3時	演示のひろば打合せ 出演団体、演目、時間、プロ、演出等	13団体15人
4月10日（日） 午前10時～正午	フィナーレのひろば打合せ 担当団体、プロ・進行、演出、スタッフ等	5団体 6人
4月15日（金） 午前10時～正午	語らい茶屋打合せ テーマ、内容進行、手づくり飲食物打合せ	3団体15人
4月17日（日） 午前10時～正午	全体実行委員会（白梅音頭歌詞、曲紹介） 各ひろばの企画集約と以後の準備	27団体30人
5月11日（水） 午後7時～10時	最終全体実行委員会（白梅音頭踊り紹介） プロビラ、ポスターPR手分け、当日打合	32団体40人
◎5月23日（月） 午後7時～10時	反省懇談会 各ひろば、総体のまとめ、ビデオ映像から	27団体30人

今回、実行委員会過程で“白梅音頭”うた・踊りが、利用者・専門家の手により創られた。

「第7回白梅会館利用者発表会」

5月21日（土） 1日目

○展示のひろば「手編み物・藤細工・パッチワーク・生花・陶芸・レザークラフト・ちぎり絵・

新作囃子衣装（七福神）・習字展（れんげ作業所）・子ども絵画展」

午前10時～午後5時

○お茶席「久田流のお点前」 午後1時～4時

○親と子のひろば 「合唱・みんなで歌おう・影絵と紙芝居・ゲームで楽しく」

午後2時～4時

来場者数195人

5月22日(日) 2日目

○展示のひろば「手編み物・藤細工・パッチワーク・生花・陶芸・レザークラフト・ちぎり絵・

新作囃子衣装(七福神)・習字展(れんげ作業所)・子ども絵画展」

午前10時～午後4時30分

○語らい茶屋「ふっさわがまち、よもやま話し」老いも若きも一つになって、“ふるさとふっさ”

を語りあかそう。 午前10時～正午

○演示のひろば「民謡・民踊・詩吟・おはやし(大人・子供)・三味線・コーラス・社交ダンス

演舞・『白梅音頭』歌唱指導と合唱」 正午～午後3時30分

○フィナーレのひろば「その場(雨天会館内)で楽しめるダンス・ゲーム・リズム軽体操・合唱

(コーラス・民謡)と『白梅音頭』振り指導と踊り」

午後3時30分～4時30分

来場者数291人

※来場者合計486人

来観者市民への白梅音頭発表と一緒に取り組む合唱・踊りで、雨天にかかわらず、大いに楽しむこととなった。

白梅利用者研修会

白梅オープン以後9年を経、定期利用グループ約50が活動。安定した文化活動に加え、生活に即した学習活動も増えつつあり、熊川地域市民の“ひろば”となりつつある。生涯学習が叫ばれる中、生活文化の創造・まちづくりにむける場となる都市公民館のこれからを考える機会として、以下のように実施した。

実施日 平成元年2月22日(水) 午後7時30分～10時 1回

会場 白梅会館

参加者 30人

月 日	内 容	備 考
2月22日	生涯学習と公民館	小林文人氏（東京学芸大学教授）

白梅利用者交流会

白梅会館の利用者及び職員が日常の交流を通じて、自主活動の交歓・公民館利用による機能整備・地域や人の様子・公民館運営審議会委員選出・公民館事業活動等について交歓、合意を得ていく場として、以下のように実施した。

実 施 昭和63年9月7日（水）～平成元年1月28日（土）

午後7時30分～10時 全4回

会 場 白梅会館

参加者 85人

月 日	内 容	備 考
9月 7日	公運審とは 白梅代表委員選出について	前任者任期満了のため 15人
14日	委員選出会議	推薦・互選・決定 30人
10月 8日	委員引き継ぎと交流会継続実施の検討	紹介・話し合い 20人
1月28日	公運審報告とグループ交流	話し合い 20人

※利用者発表会期間を除き、3ヶ月に1回の交流会を持ち、開催世話役グループ輪番で実施。

「第8回白梅会館利用者発表会」実行委員会

実 施 平成元年3月24日（金） 午後7時30分～10時

会 場 白梅会館

参加者 25人

月 日	内 容	備 考
3月24日	実施企画・日程・正副実行委員長決定	企画検討話し合い

講師派遣事業

この制度は、公民館を利用する社会教育関係団体の活動を援助するため、公民館が予算の範囲内で講師を委嘱し派遣するものである。この制度を受ける事業はすべて公募とし、一般市民が自由に参加できるものとされている。

月 日	利 用 団 体	講 師	参 加 者
6. 19	音楽愛好者連絡会	久岡 素子氏	46人
6. 29	コール野ばら	〃	46人
10. 29	グループかつぼうぎ	樋口 健二氏	15人
12. 2	アマチュアマジッククラブ	小林 文美氏	15人
2. 3	ありんこ	大堀 容子氏	40人
3. 12	ダメおやじの会	岡本 富郎氏	40人
3. 12	まつぼっくり	於保 誠氏	10人

総 括 年々この制度が公民館利用者の間に知れわたり、定着してきているようである。

(7) 高 齢 者

高齢者ワープロ教室

おおむね60歳以上の市民を対象にハンディータイプワードプロセッサの操作講習を行った。前期・後期と2度程行ったが回数についてももう少し増してほしいとの希望が多かったので後期は2回補習という型で追加した。参加者によって進み具合がかなり異なるのでもう少し回数を増す方が望ましいであろう。

コース	期 間	内 容	指 導 者	参加人員
高 齢 者 ワープロ 教 室	6月29日(水)～7月 2日(土) 午前 全4回	ハンディタイプのワードプロセッサの基本操作と簡単な文章作成	遠藤理恵氏 井梅靖子氏	60人
	11月30日(水)～12月 5日(月) 午前 全6回			60人

やじきたハイキング

高齢者対象のハイキングで、ネーミングのとおり脚力にあった楽しい山歩きを第一目的として行った。ただ参加者の中からは、もう少し歩きごたえのあるコースをという声も上っているので、今後は健脚向きも設定する必要があるだろう。

実施日	内 容 と コ ー ス	講 師	参加人員
4. 29～6. 3	5回に渡って野外活動の基礎的な知識を学んだ	吉野チエ氏 吉原寿子氏	25人
6. 8	塩 船 — 七国峠 — 岩 蔵		25人
7. 11	吾 野 — 顔振峠 — 黒山三滝 — 越 生		25人
9. 19	高尾山 — 稲荷尾根		25人
11. 14	和田峠 — 陣馬山 — 相模湖		25人
元. 1. 23	青梅七福神		25人
3. 13	百草園 — 高幡不動尊		25人

『しらうめ熟年ひろば』

都市社会の高齢化は今後の社会構造を大きく変化させる一要因となるとともに、当市も高齢化が進展しつつある。退職後の生活・生き方、生活年令的な役割変化の中で、いかに高齢期を健康で生きがいある生活としていくかが求められている。そこで、これまでの生活経験をもとに、社会変化を見つめ、たえず自己を養い、若い世代とともに地域生活を創出することが生きがいとなることにむけ、加えて、まちづくりを視野に、以下のように実施した。

「語らいふれあい活動」

出会い、ふれあい、仲間づくり、生活を結び合うために総合活動の機会として実施。

期 間 昭和63年10月7日(金)～平成元年3月24日

午前10時～正午 全10回

会 場 白梅会館

参加者 25人×10回＝250人

	月 日	内 容	備 考
1	10月 7日	熟年ひろば紹介・自己紹介・活動希望	話し合い
2	10月21日	私達の人生のあゆみ I	"
3	11月18日	“秋の味覚を食べる” 紅葉散策	五日市 光明山荘
4	12月 2日	禅 の は な し	服部照親氏(千手院住職)
5	12月 9日	私達の人生のあゆみ II	話し合い
6	12月16日	忘 年 会	年末懇親会
7	1月13日	新年の話し合い 天皇陛下崩御、昭和とは	話し合い
8	1月20日	文集作成中の各自原稿紹介と話し合い	"
9	2月 3日	"	"
10	3月24日	今年度のまとめとこれからの活動	"

※ 4月からは自主活動。白梅利用者発表会・公民館のつどい参加の企画・準備等。

人生をうたおう会〔熟年ひろば一環〕

高齢期を活々と生きるため、仲間づくりをひろげ、若い世代とも交流できる文化活動の希望が多くなってきている。そこで、心身の健康のために、人生をつづる懐かしい曲・思い出の曲・私の好きな曲などをコーラス・民謡の合唱で、以下のように実施した。

期 間 昭和63年6月10日(金)～12月16日(金)

午前10時～正午 全10回

会 場 白梅会館

参加者 40人×10回＝400人

	月 日	内 容	備 考
1	6月10日	うたおう会紹介・自己紹介・私の希望曲・うた	指 導
2	7月15日	一人ひとりの希望曲を全員で歌う	秦 恵子氏
3	8月12日	↓	(コーラス指導・ピアノ)
4	9月 9日	↓ 全30曲を歌い上げる	澤田 春駒氏
5	9月30日	文化祭“音楽の広場”参加曲練習	(民謡指導・三味線)

	月 日	内 容	
6	10月14日	琵琶湖就航の歌 白梅音頭	
7	10月28日	花 花笠音頭	
8	11月11日	夕焼け小焼け 武田 節	
9	〃 13(日)	『市民文化祭“音楽の広場”』	
10	12月16日	おさらい会 練習全曲リクエストアンコールで	

※ 以後、自主活動で実施。

「老壮懇話会」

高齢期の自己を養い、生活づくりに必要な、社会変化・自然・租税・健康医療・そしてこれからの社会参加など科目的及び参加行動学習の機会として実施した。

間 昭和63年11月25日(金)～平成元年3月17日

午前10時～正午 全5回

会 場 白梅会館

参加者 25人×5回＝125人

	月 日	内 容	備 考
1	11月25日	緑ゆたかな街づくりとは	宮岡一雄氏(明治大学教授)
2	1月27日	21世紀への都市像 PART Ⅱ	松田雄孝氏(大東学園専門学校)
3	2月17日	相続・贈与税、今消費税について	持田 力氏(税理士)
4	3月 3日	ガ ン を 知 る	木下文雄氏(都立福生保健所長)
5	3月17日	私達の社会参加と活動について	原田正二氏(元大正大学教授)

6. 市民会館主催事業

1. 目 的

会館は、市民の文化・芸術の拠点として、また豊かな人間性をはぐくむ場として、会館のもつ機能、設備を内容面で市民に還元してゆくことを目的としている。

その一環として、市民会館主催事業は、市民によりよい鑑賞の機会を提供し、生活の潤い、いこい、また、文化、芸術の創造の契機となるよう行われる。それは、市民が鑑賞者として、“すばらしいもの”を愛する心をいつまでも持ち続け、会館が主催者として、市民の求める“すばらしいもの”を十分に検討し、それに対応するという相互のより高い調和を目的とし、開催する。

2. 目 標

ポップス、落語、寄席、映画等、幅広いジャンルからの企画により、多くの市民の参加を目標としている。

また、主催事業の内容の充実とともに、催しを全市民に周知するよう宣伝活動の徹底をこころがける。

出 演 名	実 施 日	会 場	入場料金	発売人数	出 演 者
福生お笑い大行進	昭和63年 6月25日(土)	小ホール	自由 1,500円	229人	玉川カルテット 青空千夜一夜 三遊亭小円楽 西川のぼる
世良公則コンサート	昭和63年 10月22日(土)	大ホール	指定 3,000円	665人	世良 公則
高橋竹山演奏会	昭和63年 11月30日(水)	大ホール	指定 2,000円	1,127人	高橋 竹山 高橋 竹与
初笑い福生寄席	平成元年 1月8日(日)	大ホール	指定 1,500円	975人	三遊亭円楽 おぼんこぼん 堺 すすむ 松旭斎ちどり 三遊亭良楽
花房晴美 ピアノリサイタル	平成元年 2月4日(土)	小ホール	指定 1,500円	260人	花房 晴美

市民名画劇場

上 映 作 品	上 映 日	上映回数及び入場者
カラーパープル	5月28日(土)	午後・夜間 2回 239人
スタンド・バイ・ミー	7月30日(土)	午後・夜間 2回 493人
インナースペース	9月17日(土)	午後・夜間 2回 186人
男はつらいよ・寅次郎と殿様	11月12日(土)	午後・夜間 2回 152人
ベスト・キッド2	12月17日(土)	午後・夜間 2回 50人
ホワイトナイツ	1月28日(土)	午後・夜間 2回 109人
ボリスアカデミー2 全員出動ノ	3月25日(土)	午後・夜間 2回 87人

いずれも市民会館小ホール